平成30年度　　武雄市立東川登小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
生き抜く力の育成 やさしく　かしこく　たくましく 思いやりと感謝の心を持ち、自ら学ぶ意欲のあるたくましい児童の育成	(1)出番・役割・承認のサイクルを取り入れた学級・学校づくり (2)言語力を基盤とした確かな学力向上 (3)家庭・地域・民間学習塾「花まる学習会」の教育力を活かす活動 (4)四育成部による実効性のある活動

達成度　A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

3　目標・評価

①知・徳・体の調和の取れた児童の育成推進

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由　○は成果，●は課題）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上 【技】育成部	・基礎学力の向上（国語・算数）	①各学年の家庭学習の日安の時間を習慣化させた児童85%を目指す。 ②学習塾の手法を学校教育に効果的に取り入れ、「計算・音読・視写が上手くなった。」と答える児童90%以上を目指す。 ③図書の本の年間貸し出し冊数の平均200冊以上を目指す。	①校内研究において、「スマイル学習」等、家庭での予習を効果的に取り入れた指導法改善に取り組む。 ①育友会総会、家庭訪問、学級育友会、学力向上便り等で、家庭学習の重要性や家庭学習の方法について発信し、家庭への啓発を進める。 ①「家庭学習の手引き」「まなぶくん」を活用して、家庭と連携を密にした取組とする。 ②朝の時間の花まるタイム（15分）を活用し、「サポテン」や「あさがお」等を中心に、計算・音読・視写の習熟を図る。 ②花まる学習指導員と連携し、花まるタイムの手法とその裏付けを十分に理解したり、学級の実態に応じたより効果的な教材等を工夫したりしながら、基礎学力のより一層の向上を図る。 ③家庭と連携し、読書習慣の更なる定着を図る。 ③「武雄市おすすめの本」を推奨し、読書の質の向上を図る。	B	●家庭学習の目安の時間が習慣化できた児童は、70%と昨年より増えたが85%には届かない。 ○スマイル学習の実施が増えた。 ○家庭学習の手引き、まなぶくん、学力向上だよりで、年間通して保護者との連携ができた。 ○花まるタイム、花まる英語で児童の力をつけることができた。 ○図書の本の年間貸し出し冊数が平均200冊以上であった。	・目標には届かなかったものの家庭学習に力を入れていくことは十分伝えることができたので、家庭学習の手引き、まなぶくん、学力向上だより等、今後も継続して行くことが重要である。 ・花まるタイム、花まる英語に関しては、成果も上がっているが、来年度回数が減るので、質を落とさないように工夫しながら実施していく必要がある。 ・親子読書の本を各学級2冊貸し出し、児童一人一人にまわして親子で読んでもらうようにしている。・低学年200冊、中学年150冊、高学年100冊にチャレンジし、その冊数を超えた児童には『あと1冊借りれるカード』を発行した。また、自分が今何冊借りているかを可視化したら借りにくる児童が増えた。
	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施 【技】育成部	・学力向上を視野に入れたICT利活用の充実・推進	④公開授業、訪問授業における、タブレット端末または、「スマイル学習」を活用した授業の実施率を90%以上とする。 ⑤保護者授業参観で、年1回以上タブレット端末または、「スマイル学習」を活用した授業を実施する。	④⑤予習と説明を中心とした校内研究において、「スマイル学習」等、タブレット端末を活用した授業を日常的に実践する。 ④⑤ICT支援員との連携を密にした、授業実践を行う。 ④⑤ICT利活用について、講師を招聘して研修会を開く。	B	○「スマイル学習」での、予習はどの学年も概ね実施することができたが目標の90%は達成できなかった。 ○多教科にわたり、ICT支援員との連携を図り、3年生以上は授業を行うことができた。 ●ICT利活用についての講師招聘をしての研修会は開くことができなかった。	・スマイル学習の計画表を単元ごとに確認することで、実施率をあげる。 ・引き続きICT支援員とは、連絡、相談を行いながら、実践授業の回数を増やしていきたい。 ・校内研や長期休業中などに年1回の計画をしておく必要がある。
	●心の教育 【心】育成部 【絆】育成部	・道徳教育の充実	⑥「考え、議論する道徳」授業の日常的実践を目指す。 ⑦保護者、地域が一体となった道徳教育を目指す。	⑥道徳の教科化に伴い、講師を招聘して研修会を開くなどして、「考え、議論する道徳」授業を推進する。 ⑦土曜開校でふれあい道徳を公開し、家庭、地域と一体となった実践を行う。 ⑦ふれあい道徳の公開の様子、児童の保護者・地域住民の感想等を学校便りや学校ホームページ等で知らせる。	B	○講師を招聘し、教科化に対応した評価の研修会を開催し、評価の適正化を図ることができた。 ○土曜開校日に計画通りに道徳の授業を公開し、学校での取り組みを伝えることができた。 ○ふれあい道徳の様子を、学校だよりや学級通信などで伝えることができた。 ●考え議論する道徳の授業作りについては、研修を深めてい必要がある。	・道徳の学習でどのような児童を育てようとしているのか、保護者にも伝えることにより、連携して指導を行っていくことが今後も必要である。 ・さらに、研修に参加したり、講師を呼んで研修を行ったりと、教職員のスキルアップを目指していく。
		・人権・同和教育の推進	⑧自他共に大切にし、認め合う差別のない集団づくりに努める。 ⑨Q－Uテストにおいて、「学級生活満足群」65%以上を目指す。	⑧⑨Q－Uテスト（年間2回）や生活アンケート（毎月）の結果を学級経営に生かす。 ⑧⑨全ての児童に、出番・役割・承認のサイクルのある学校行事や学級づくりを実践し、児童の自己肯定感を高める。 ⑧⑨教師が互いに学び合いながら、支持的風土のある学級づくりを実践する。 ⑧異学年によるグループを編成し、なかよし班活動（共遊・掃除・遠足・運動会等）を実施する。 ⑧人権週間に全校人権集会や人権標語に取り組み児童の人権意識の高揚を図る。	B	●2学期のQ－Uテストにおいて、「学級生活満足群」が58．3%で、1学期より高くなっているが目標を少し下回る結果であった。 ○毎月の生活アンケートでは、児童間のトラブルや児童の悩みに対応できた。 ○なかよし班では、高学年を中心に自主的な活動が見られた。 ○人権集会では、人権合言葉や人権標、人権劇などを通して、人権や言葉の大切さなどについて考えることができた。	・日常の児童観察や生活アンケート等での児童理解に努め、問題の早期発見、早期対応を図る。また、今後も職員間の情報交換を定期的に行い、連携を図りながら指導する。 ・なかよし班による全校的な仲間づくりを通して、互いに認め合い、支え合う態度を育てる。 ・職員が人権問題に対する認識を深めるために校内研修を実施する。 ・クラブ活動の時間の確保。
	●健康・体つくり 【体】育成部	・望ましい生活習慣・食習慣の形成と体力づくり	⑩早寝・早起き・朝ご飯ができている児童95%以上を目指す。	⑩「技」育成部と連携して、学力向上が基本的な生活習慣と深い関わりがあることを学力向上だよりや保健だより等で保護者に啓発していく。 ⑩定期的に、生活習慣の点検を行い保護者と連携した取組とする。 ⑩生活習慣の点検とあわせて、家庭でのテレビやゲーム、SNSの時間を調査し、保護者の意識を高めていく。 ⑩育友会広報誌等でも取り上げてもらい、育友会と連携した取組とする。	B	○学校評価アンケートで、「早寝・早起き・朝ご飯ができている。」と回答した児童は、93．3%であった。 ○ゲーム等についてのアンケート結果をもとに資料を作成したり、脳に与える影響についての資料を学級懇談会の時に提供し、学級担任より保護者へ啓発することができた。 ○保護者への学校評価アンケートでは、前回に比べ、ゲームの使用時間90分以内と回答した人が、68.9%→71.9%へ上昇傾向にあったことから、保護者の意識も少しではあるものの変化がみられた。 ●育友会と連携した取り組みを行うことができなかった。	・育友会と連携して、講師を呼んで話しをしてもらうなどの取り組みを行っていく必要がある。 ・今後も、引き続き保護者へ学級懇談会や保健だよりなどで啓発を行っていく。

②教職員の資質と指導力・授業力・教師力・倫理観の向上

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由　○は成果，●は課題）	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善。教職員の働き方改革の推進（質の視点）	・教育活動の能率性向上	⑪勤務時間内に授業研究・教材研究ができる時間を確保する。	⑪様々な取組を前年度踏襲ではなく、その必要性、効果、実施方法を互いに問いかけ合い議論する風土を醸成する。 ⑪取組の選択と焦点化の発想で、縮小、統合、廃止、見直しの業務改善を実施する。	B	○運動会では、縮小、統合、廃止、見直しによる業務改善が実施された。他の行事、取組のモデルケースとしたい。 ○教務の計画により、水曜日の課後を学級事務の時間として使用できる日が多くあった。 ●行事や取組の見直しだけでなく、週時程の工夫で時間を捻出していく必要がある。	・週時程の工夫(毎週水曜日の課後の学級事務の時間の捻出)で、授業研究・教材研究の時間を作りだし、教職員の資質・能力の向上を図る。
	○教職員の資質向上 【技】育成部	・指導力の向上 ・服務規律保持の徹底	⑫「先生は、分かりやすく、熱心に授業を教えてくれる。」と答える児童90%以上を目指す。 ⑬教職員の綱紀粛正と服務規律の保持に努め不祥事案を0にする。	⑫全職員による年1回以上の授業公開を核として、「確かな学力」を身につけさせる指導方法について学び合い、指導力の向上を図る。 ⑫学習用語を重視した教材研究を行い、「教えて考えさせる授業」を日常的に実践する。 ⑬職員会議に危機管理委員会を設け、「信頼される教職員であるために」等を活用した不祥事案等服務についての事例研修会を継続的に実施する。	B	○学校評価アンケートで「先生は分かりやすく熱心に勉強を教えてくれる。」と答えた児童は、100%であった。 ○年間5回の授業研究会を設け、指導力向上を目指すことができた。 ○教職員の不祥事案0であった。 ●学習用語の掲示について統一ができていなかった。	・年間通して掲示できる学習用語を、学校全体で統一することで、系統立った指導を目指す。 ・授業研究会は来年度も継続する。今年度効果が見られた予習型の学習について、研修を深める。 ・次年度も、引き続き職員会議、連絡会等で定期的・継続的に服務規律の徹底について話題にし、職員による議論の場を作る。また、「校務シェア」の「回覧板」で呼びかけ、確認を行う。
教育活動	●学力の向上 【技】育成部	・コミュニケーション能力の向上	⑭自分の考えを相手にはっきりと分かる声の大きさで伝えられる児童85%以上を目指す。	⑭新学習指導要領の本格実施に向けて「主体的・対話的で、深い学び」についての研修を深める。 ⑭校内研究の算数の授業を中心として、判断場面を意識したアウトプット型の授業実践に、日常的に取り組む。	B	○校内研究での授業実践や校長による提案授業の参観等で研修を深め、判断場面を意識した授業実践に力を入れることができた。 ●新学習指導要領についての研修ができなかった。	・予習型の学習効果や家庭学習に力を加えた効果が、学習調査の結果からも見ることができた。今後も継続して、子どもの学力保証をしていく必要がある。 ・新学習指導要領に関する研修の機会を設ける必要がある。

③地域の教育力の活用と情報の発信により、信頼される開かれた学校づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由　○は成果，●は課題）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針の周知	・学校教育目標と本年度の重点目標の周知	⑮教職員・児童・保護者・学校運営協議会・地域学校協働本部等に周知し、周知度を95%以上にする。	⑮職員会議、全校朝会、学級の時間等で説明、意味づけし、周知する。 ⑮学校便り、育友会総会、学校運営協議会、学級懇談会、地区懇談会、ホームページ等で説明、周知する。	B	○学校評価アンケートで「学校目標を知っているか。」「あてはまる」「だいたいあてはまる」と答えた保護者は、**93.3%**、児童は、97.8%であった。 ○学校関係者評価では、「学校は、教育目標や教育方針を伝えるようにしている。」の「あてはまる」「だいたいあてはまる」の割合100%であった。	・重点目標の学力向上(家庭での学習時間、ゲーム・テレビの時間)に関しては、育友会と連携をとりながら、より多くの場面で話題とし保護者の更なる意識改革を図る。
	○開かれた学校づくり	・学校情報の発信 ・学校公開 ・学校評価の公表	⑯月1回以上の学校便りの発行と、ホームページ・ブログ等の更新により学校の情報を発信する。 ⑰授業参観や学校行事を地域に広く公開する。 ⑰学校運営協議会による学校評価や学校関係者評価に取り組み学校改善を図る。	⑯学校便り等を毎月発行し保護者・地域等に配付する。 ⑯ホームページ・ブログ等の更新を、月1回以上定期的に行う。 ⑰授業参観や学校行事を全て公開し、案内を公民館を通して地域にも配付または回覧する。 ⑰学校運営協議会を年間2回以上実施する。 ⑰学校評価の公表と学校関係者評価を実施する。	A	○学校評価アンケートで「学校は、家庭や地域へのお知らせや連絡等を行い、連携を図っている。」に「あてはまる」「だいたいあてはまる」と答えた保護者は、98.9**%**、は、学校関係者は100%であった。 ○「学校は、開かれた学校づくりに努めている。」の「あてはまる」「だいたいあてはまる」の割合は、保護者、学校関係者ともに100%であった。	・ホームページによる行事の紹介やブログの更新（月1回程度）を行い情報を発信する。
	○安全安心な学校づくり 【体】育成部	・校内外の児童の安全確保 ・家庭、地域との連携	⑱家庭、地域と連携し、校内外の事故、犯罪被害の未然防止に努め、発生を0にする。	⑱職員会議に危機管理委員会を設け、危機管理体制の確認や過去の事件・事故の事例を紹介する等、継続的に教職員の危機意識の高揚を図る。 ⑱保護者、地域住民に呼びかけ、危険箇所や児童の校外での様子等、情報収集を図る。 ⑱地域の危険箇所を把握し、保護者、地域との連携による安全体制を整え、事故や犯罪被害防止に努める。 ⑱学校情報メール等で、事件、事故の未然防止のための注意喚起を行う。	A	○児童の校内外の事故発生件数は、0件であった。 ●新幹線工事に伴い、登下校中や休みの日の安全指導を徹底させる。また、避難訓練も休み時間の地震発生など、今、訓練していない様々な場面を想定した訓練を行う必要がある。	・校区が広く、長い距離を登下校している児童が多く、登下校時の安全指導の徹底を図る。 歩いて下校する児童を確実にら把握し、犯罪被害防止や熱中症対策、事故防止に生かす。 ・休み時間の地震発生を想定した、避難訓練を行う。
	○家庭・地域・学習塾との連携	・育友会との連携 ・地域との連携	⑲地域住民の花丸タイムへの参加人数1回平均10名以上を目指す。 ⑳保護者の授業参観、学校行事、花丸タイムへの参加率85%以上を目指す。	⑲⑳家庭・地域・学習塾の協力により、花まるタイム、青空教室を実施する。 ⑲公民館と協力して行事や情報の発信に取り組む。 ⑲学校支援地域本部に学校への協力を依頼する。 ⑲地域行事、会合に積極的に参加する。 ⑳花まるタイムに必ず1回は保護者に参加してもらうため、全保護者による分担表を作成し、育友会と連携して協力を要請する。 ⑳各種行事等への案内状を早期に配付または回覧する。	A	○花まるタイム、青空教室など計画的に実施することができた。 ○花まる支援員の方に年間通して参加(平均13人)をしてもらうことができた。 ●保護者の参加（80%)で、やや目標に届かなかった。 ○学校行事の配付や学校メール配信、学校だより、学級だよりなどにより、各種行事の案内や広報ができた。	・保護者や地域の方の温かい協力を得て、花まるタイムを始め、いろいろな行うことができた。この良好な関係を今後も続けていくための努力をしていかなければならない。 ・花まるタイムへの保護者の参加については、来年度も継続して呼びかけを行っていきたい。

④本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由　○は成果，●は課題）	具体的な改善策
学校運営	●業務改善。教職員の働き方改革の推進（量の視点）	・教職員の時間外勤務の縮減	㉑時間外勤務の平均時間を前年度比10%縮減とする。	㉑タイムレコーダーにより教職員の時間外勤務を正確に把握すると共に、各自で時間外勤務状況を確認するようにし、業務改善の意識高揚を図る。 ㉑職員会議に労働安全衛生委員会を設け、毎月の時間外勤務の平均時間を提示するなどして、業務改善の意識付けをする。 ㉑教諭等が行っている業務の一部を事務職員が支援し、事務職員の学校経営への参画を進める。 ㉑定時退勤日を金曜日に設定し、遅くとも18時には学校を閉める。 ㉑「校務シェア」の「回覧板」の活用や、会議資料の事前配布、内容を精選した提案等で、会議回数、会議時間の削減に努める。	B	○時間外勤務の平均時間は、昨年度並みであったが、毎月1回、タイムレコーダーによる勤務時間および時間外勤務の記録を個々人に提示したことで、自ら退勤時刻を設定して仕事に臨むなど時間の使い方を意識する教職員が見られるようになった。 ●個人差が大きい。	・「個々人が自ら退勤時刻を決めて、時間のを制限して仕事に臨む。」「丸付けの効率化を図った宿題の出し方をする。」など具体的な取組を行う。教職員個々人の資質・能力の向上と合わせた、時間外勤務の削減に取り組む。
教育活動	●いじめの問題への対応 【心】育成部	・生徒指導と教育相談の充実	㉒「学校は楽しい。」と答える児童95%以上を目指す。	㉒生活アンケート（毎月）、Q－Uテスト（年間2回）、いじめアンケート（年間2回）を実施し、児童の状況把握を行い、いじめ等を早期発見し適切に対応する。 ㉒教育相談週間を設けて全児童の個人面談を行い、相談にのるとともに、情報収集に努める。 ㉒「あのねポスト」を活用し児童理解を深める。 ㉒外部機関と連携し、児童の実態に応じた情報モラル教育を行う。 ㉒多様性を当たり前のものとして理解し、認め合い支え合う集団づくりを全校あげて実践する。	A	○学校評価の結果は、保護者は98.9%、児童は96．7%が楽しいと答えていたので、具体的目標を達成できてよかった。 ○本年度もQ-Uアンケートを2回行ったが、1学期と比べるとどの学年も2学期の方が学級満足度の数値が高くなっていた。夏休みに「Q－U」結果を活用した学級づくりの研修会を行ったので、それの効果もあったと思われる。 ●日常的に児童の悩みや問題を拾い上げられるような手立てが必要である。	・「あのねポスト」の設置と活用。生活アンケートは月末なので、いつでも悩みや問題を拾い上げれるようにする。 ・情報モラルの研修会は、保護者が参加しやすい時に高学年の保護者以外も参加できるようにする。
	○特別支援教育の推進 【心】育成部	・特別支援教育の推進	㉓特別支援教育への理解と専門性を高めるために年間2回以上の研修を実施する。 ㉔年間2回のPDCAサイクルに基づき、個別の教育支援計画による支援をより効果的なものとする。	㉓講師招聘による職員研修を実施する。 ㉓職員の共通理解を図るために校内委員会を年間3回、校内研修会を年間2回実施する。 ㉔家庭や専門機関と連携し、個別の支援計画を作成・更新する。 ㉔学期ごとのPDCAサイクルに基づき効果的に個別の教育支援計画の改善を図る。	B	○本年度は夏休みにUD教育の研修会を行った。余計な刺激を減らす教室環境づくりに全校で取り組むことができたことは一番の収穫だったと思う。 ○担任の気づきに基づき、コーディネーターが検査を行い、SCがその分析と支援方法を行った。それを保護者や教師の児童理解や指導支援に生かすことができた。(8人) ●本年度は校内委員会が年間3回、校内研修会は1回の実施だった。児童への理解啓発については1年生と4年生に行ったが、1年生については入学の早い時期に行った方がよい。	・児童の理解・啓発の授業をできるだけ1学期の早い時期に持つ。多様性を当たり前のものとして児童が理解できるようにしていく。 ・2回目のPDCAサイクルが10月の忙しい時期で、忘れずに実施できるように個別の支援計画記入週間を作ったらよいのではないかと思う。
	○外国語教育の推進 【技】育成部	・新教育課程の実施に向けた外国語教育の推進 ・国際理解教育の推進	㉕カリキュラムマネジメントにより授業数増加による児童や教職員の負担感を軽減させる。 ㉖外国語活動や外国語科に意欲的に参加する児童90%以上を目指す。	㉕㉖花まる英語を実施する。 ㉕㉖日常的に英語を取り入れる取組を行う。 ㉕㉖ALTを活用した「ミッション」を実施する。 ㉕㉖教職員の研修を行う。金曜日の放課後にALTによる職員自由参加の英語研修を行う。	B	○学校評価において、「英語の学習は、楽しい。」と答えた児童が96．7%であることから、意欲的に授業を受けたことがうかがえる。 ○5，6年生に加え、3，4年生も花まる英語に週2回、取り組むことができた。 ●教職員の英語スキルアップ研修を行うことができなかった。	・英語に対する児童の意欲を維持するために、確実に週2回の花まる英語を確保する。 ・学級担任がクラスルームイングリッシュを日常に使えるように、職員連絡会で短時間のワンフレーズレッスンを行う。

●は共通評価項目、○は独自評価項目